

岸本区長の「不誠実」「無責任」にNO!

待機児童増加等に対応できない岸本区長の政治姿勢 決算は不認定! 予算案にも反対!

無所属・都民ファーストの会を代表し、令和6年度杉並区各会計歳入歳出決算審査での発言要旨をまとめました。達成目標は不明瞭。選挙時の勇ましい公約は「封印」され、それをごまかすために全庁を挙げて苦しい区政運営を続けた1年であったと総括。区政の信頼性の欠如を理由に「決算不認定」の判断をしました。

①選挙公約

公約進捗状況を公式HPで公表している自治体は、ほぼ皆無であり、全庁を挙げて区長公約を進捗管理し、しかも公式に公開している杉並区の「異常性」を、我が会派として厳しく指摘。区民の税金と職員の労力を「自画自賛」のために浪費する政治姿勢に整合性はなく、区長がその地位を利用し、区政を私物化していると言わざるを得ません。

②「児童館をもとの数に戻す」公約は反故に。待機児童増加が加速。

自身の公約で児童館再編を否定したが故に、対策はどんどん先送りになっているのが現状です。保護者の切実な声や現場の逼迫した実態に対し、あまりにも鈍い対応だと言わざるを得ません。

③対話の区政

荻窪三庭園の指定管理者選定問題、浜田山駅南口開設の頓挫、阿佐ヶ谷北東まちづくり計画の混迷。これらはすべて、区長が掲げる「対話」が現場で全く機能していない証拠です。

④リーダーシップ

都市計画道路の第五次優先整備路線の決定プロセスでは、リーダーシップの不在を象徴しています。そして極めつけは、危機管理意識の欠如です。

令和6年度予算審議で指摘した事項はいずれも改善されず、不誠実な区政運営が続いていることは明らかです。そのため、我が会派は一般会計については「不認定」と断じました。一方、各保険事業等の特別会計については、制度趣旨に沿って適正に執行されたと判断し、認定といたします。

井口 えみ

〒167-0033
杉並区清水3-29-13 荻窪パレス201
TEL:03-6824-1338
FAX:03-4496-4267
E-mail: emi@suginami-iguchi.com

議事録、議会映像はQRコードからご覧いただけます。



笑みがあふれる杉並の未来に全力

杉並区議会「無所属・都民ファーストの会」の1人として活動を続ける井口えみ区議会議員の議会報告です。無責任な行政運営に警鐘を鳴らし、真っ向から政策論争を挑んでいる活動の一端をまとめました。皆様のご意見、ご要望をお聞かせください。

天沼小学校区での連続強盗事件

強盗犯が逃げる街で、子どもを一人きりにした無責任体制を問う!

区は無責任です
子どもの安全を守る「危機管理」本当に大丈夫?

区民の安心・安全を守ることは行政の最も基本的な責務です。天沼小学校のすぐそばで、わずか1ヶ月の間に2度も起きた強盗事件。あの時、街を襲った恐怖と不安を、区はどれだけ理解していたのでしょうか。私は行政の対応を徹底検証。区長の無責任さを厳しく問い、今こそ「本気の地域連携」が必要だと訴えました。

4月10日(一回目) 情報混乱、そして役所への第一報が私からという問題

最初の事件発生時、区への対応は混乱を極めました。

- 情報把握の遅延: 発生から2時間近く経っても、区が事件を把握していないという、信じられない事態。
- 現場発信の混乱: 役所への第一報が私からの連絡だったという事実自体が、区の危機管理体制の崩壊を示しています。

●学童受け入れの崩壊: 事件後、二つの児童館で対応方針がバラバラだった結果、区は統一見解として「一律受け入れをしない」という判断。一番助けてほしい時に、子どもを守る場所の門を閉ざされました。

5月8日(二回目) 教訓が生かされた! 学校・地域・警察の連携こそが不可欠

二回目の事件では、一回目の教訓が生かされ、情報連携が機能し、迅速な対応へと繋がりました。これは、学校・危機管理課の努力に加え、荻窪警察署が地域と一丸となって防犯体制を強化して下さった尽力の成果でもあります。

危機管理体制の欠如

5月8日の事件発生直後、区長のSNSには「区内中学校でアンネのバラが咲いた」と投稿されました。二度目の強盗事件で地域が緊張につつまれていたまさにその時、緊迫する現場をよそに、杉並区の危機管理のトップが、自身のプライベートな投稿を優先していたのです。危機管理の責任者としての資質の問題を提起しています。以前、区内で水害が発生した時に、陣頭指揮もせず、さっさと公用車で帰宅した区長が、またもや危機管理意識の低さを露呈したことで、「この人に杉並区を任せて大丈夫なのか」といった声が、地域から寄せられているのも事実です。

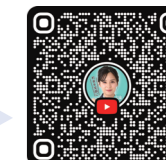
えみが問う! 教育長も認めた「地域のつながりとPTAの重要性」

区長の無責任さを追及する中で、「子どもの安全には、学校・地域との連携が不可欠である」と訴えました。

Q 井口えみ 「学校を守るために、地域や保護者の果たすべき役割は?」

A 教育長 「PTAや地域の皆様が一丸となって、学校の安全対策を一層強めていく」

天沼連続強盗事件についてはYouTubeでも詳しく解説しています。



まちの声を生かす 実現へ

地域のみなさまとご一緒に実現しました

- 防災井戸のメンテナンス費用助成金増額
- 屋敷林剪定費補助
- 不審者多発地域への街灯設置
- 中小企業向けデジタル化推進助成金創設
- 介護職採用支援
- 現場の声を踏まえた認知症グループホームの整備計画見直し

等多数!

杉並区議会議員 (無所属・都民ファーストの会)

井口 えみ

区民生活委員会
文化芸術・スポーツ・まちのにぎわいに関する特別委員会

地道な活動の成果も着実に!

【生活向上】地元の皆様「危ない」という声を受け、通学路や保育園周辺に、道路標識・標示や街灯・カーブミラー・横断歩道等を多数設置。これが現場主義の力です。

プロフィール

- 1988年3月 杉並区生まれ O型 うお座 辰年
- 杉並区立春掛小、國學院久我山中・高、明治大学法学部卒
- 大学時代は明大スポーツ新聞部の記者としてラグビー・体操・自転車競技を担当
- 22歳 都内の旅行会社に就職し、北京事務所でも勤務。
- 26歳 銀座のアパレル店で、語学力を活かしてインバウンド対応。
- 32歳 実家の運送会社に経営参画。トラックの運転もこなします。
- 荻窪消防団第一分団所属 ●東京青年会議所杉並区委員会委員長
- 2023年4月 初当選 杉並区議会議員(無所属・都民ファーストの会)

あなたの声が、杉並を変える力になります。ご意見・ご要望をお聞かせください。

公式LINE登録はこちら▶



優先順位を見誤る杉並区政

数字と現場の視点から問う、
リーダーの資質と政治的責任



岸本区政の「失政」が招いた 杉並の危機

杉並区はいま、大きな岐路に立たされています。岸本区政が掲げる「対話」や「多様性」といった華やかな言葉の裏側で、行政組織の崩壊、公約の変節、そして次世代を担う子どもたちの生活・教育環境の悪化が加速しています。井口えみは、数字と事実に基づき、区政の「不都合な真実」を徹底的に追及し続けます。

学童クラブ 待機児童数

ワースト1位の衝撃

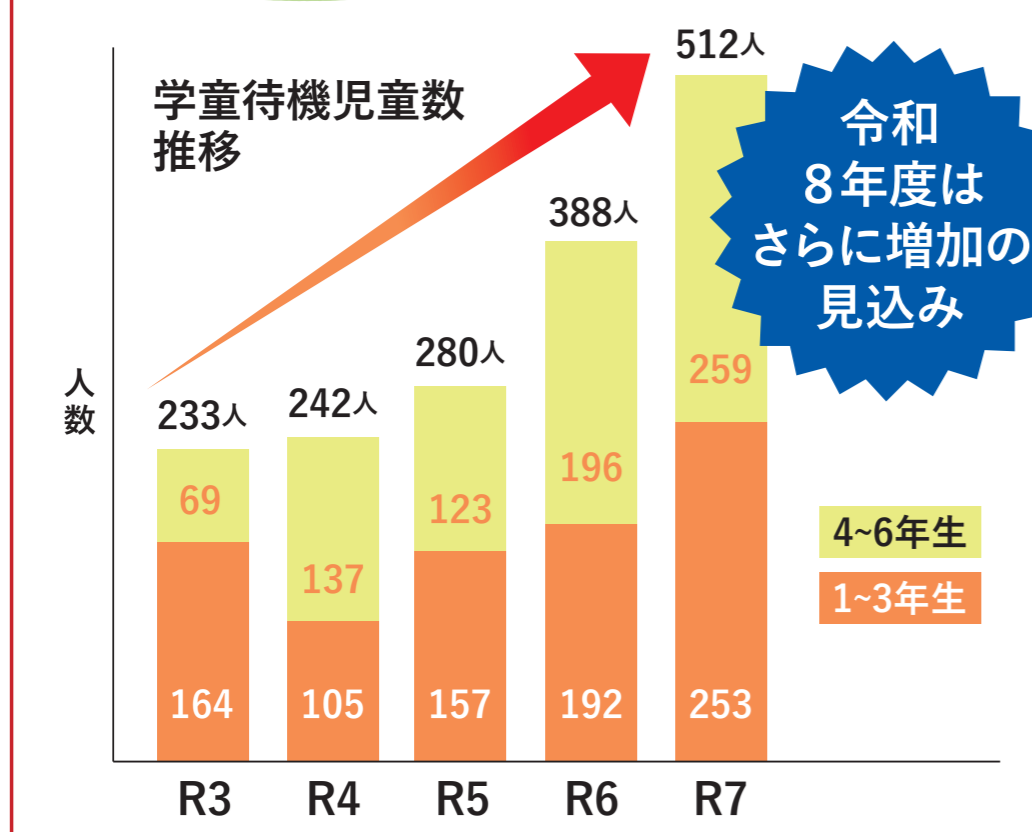
昨年春、杉並区の学童待機児童数は512人に達し、全国の自治体でワースト1位※という極めて不名誉な結果となりました。
※子ども家庭庁調査

井口えみの視点

予測できたはずの事態を放置した結果が、全国ワースト1位。区長の政治的判断の誤りによる「失政」そのものです。

追及のポイント

待機児童激増の真の理由は、前区政の施設再編整備計画を批判して立ち止まり、「対話」という名のパフォーマンスに時間を費やして整備を怠り続けた区長自身の「不作為」です。自らの政治的主張を優先し、子どもたちの安全な居場所の整備を後回しにした結果が、この全国ワースト1位という恥ずべき数字です。



崩壊する行政組織と現場の疲弊

岸本区政になってから、区職員のエンゲージメント(意欲・誇り)の低下が深刻な数値となって現れています。

項目	岸本区政下での変化
採用試験応募者数	約40%(4割)減少
若手職員の退職者数	以前の約2倍に増加
管理職への昇任意欲	著しく低下

井口えみの視点

リーダーが責任を「みんな」や「社会情勢」に転嫁し、現場に負担を押し付ける姿勢が、職員の誇りを奪い、モチベーションを下げているのではないのでしょうか。

2025年9月 令和7年度 第3回定例会 | 地域医療の混乱と形骸化した「防災」を問う

地域医療 新病院(河北総合病院)旧跡地の「地下のくい」撤去問題

主張: 2025年7月に開院した最新の河北総合病院は、田中前区政のリーダーシップが結実した「先見性のあるまちづくり」の成果です。

追及: 岸本区長は旧跡地の地下構造物(くい)の全撤去を病院側に求めています。全撤去には莫大な費用と工期の延長が必要ですが、当時の協定書の解釈をめぐって、病院との対立が深まっています。

井口えみの提案

「対話」を掲げながら民事訴訟も辞さない強硬姿勢を取るのではなく、地域医療を支え合う民間病院との信頼関係を回復し、調和できる接点を見出すべきです。

豪雨災害の最中に「区長が帰宅」!? 区民の命を軽視するトップの責任感

防災体制 ゲリラ豪雨への初動対応

災害対応中にトップが離席! 区民の命は誰が守るのか?

追及: 大雨により区の危機管理体制が発動され、職員が対応に追われる最中に、区長は陣頭指揮をとらず、公用車で早々に帰宅。

2025年11月 令和7年度 第4回定例会 | 区政の私物化疑惑と、危機に瀕する文化・教育を問う

行政の信頼 「区長の顔写真」大量掲載

追及: 公的調査の冊子全ページに区長の顔写真が掲載され、515名に誤送付されました。

主張: 行政文書を個人の宣伝に利用するような振る舞いは、信頼性を損なう「区政の私物化」です。

文化継承 「常勤学芸員ゼロ」がもたらす郷土資料の危機

主張: 15万点の収蔵資料を守る専門職「学芸員」の常勤採用枠が、制度の壁により事実上閉ざされています。

教育 生成AI活用における「考える力」の育成

追及: AIの答えを鵜呑みにせず、子どもの「自分で考える機会」を奪わない教育が必要です。

井口えみの提案

資料を未来へつなぐため、専門性を蓄積できる「常勤専門職」としての位置づけを求めます。

井口えみの提案

AI時代だからこそ、コミュニケーションや自己理解といった「人間ならではの生きる力」を育む教育の再定義が必要です。

2026年3月 令和8年度 第1回定例会 | 不誠実な情報発信と、実効性のない防災対策を問う

情報発信 防災カタログ事業での「数字のトリック」

追及: 区は「96%が満足」と強調しますが、回答必須の設定を利用した見せかけの数字です。全世帯を分母にすれば肯定的意見は約4割にすぎず、これを「高い評価」とするのは不誠実な印象操作です。

防災対策 一刻を争う「道路拡幅」の必要性

主張: 阿佐ヶ谷北の火災現場を含め、区内道路の約3割が緊急車両がスムーズに通れない幅員4m未満の狭い道路です。現区政になってその拡幅整備率が低下しています。言葉だけの「対話」に時間を費やすのではなく、救急車や消防車を通すための具体的な予算と行動、道路拡幅こそが不可欠な防災対策です。



井口えみの決意

耳あたりの良い公約を並べる一方で、足元の行政組織や文化継承、子どもたちの環境が疎かになっている現状を見逃ごせません。イメージ戦略に惑わされることなく、数字と事実に基づき、誠実な区政を取り戻すために戦い続けます。

YouTubeでも詳しく解説しています。

